

小澤 寛樹

今回は映画ではなく、昨年、40%超の高視聴率を上げたテレビドラマです。多くの方が見られたでしょうから、今回は内容にも少し詳しく言及します。

ドラマは母親が突然なくなり家族機能を失った阿須田家に、三田灯(松嶋菜々子)という家政婦が朝7時からようどに訪れる場面から始まります。

母親の死が実は自ら川に入ったため、その契機が夫からの離婚届だったことが初回から明らかになります。そのことは子どもたちも知ることにになり、父親は責められます。

一方、「ミタさん」は家政婦の仕事完璧にこなし、かばんから必要な物を

家族の自殺を描いた

「家政婦のミタ」(2011)

何でも取り出し、命令されれば犯罪行為も平然と行います。父親と子どもたちは仕事、恋愛、勉強、いじめなどの悩みを相談しますが、彼女は何も言葉を返さず、まるで鏡のように対峙(たいじ)します。しかし、そんなミタさんの行動により、家族は絆を取り戻していきます。

日本では毎年3万人以上が自殺し、未遂者はその10倍以上、一度でも死ぬことを考えたことのある人は1割は存在するといわれています。国を挙げて自殺予防に取り組んでいます。な

かなか減少傾向になりません。自殺対策には大きく分けて、予防(事前教育)、今

で伝える③率直な感情を表現する機会を与える④知人の自殺を経験したときに起

その時、普段は業務のこ

長崎大学病院の外来には



イラスト—藤尾祥帆

まさに自殺を目前にした危機介入、そしてポストベンシヨンの3段階があります。ポストベンシヨンは自殺者が出てから、その影響を最小限にとどめる対策、いわば遺族ら関係者へのアフターケアです。具体的には、①関係者の反応が把握できる人数で集まる②自殺について事実

を中立的な立場

決して直接的な希望を持たせる安易な内容ではありませ

周囲へのアフターケア必要

長崎大精神神経科学教室のホームページのアドレスは、<http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/psychtry/>